



# 四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.1

【発行日】2007年12月20日 【発行】四日市看護医療大学 庶務課  
〒512-8045 三重県四日市市菅生町1200 ☎059-340-0700 059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

## 「学報」創刊に

## あたって

学長 河野 啓子

本大学は、平成19年4月、四日市市と暁学園の公私協力方式で開学し、地元三重県をはじめ北は岩手県、南は沖縄県といったさまざまな地域から、143名の一期生を迎え、その第一歩を踏み出しました。

全国には現在158の看護系大学があり、それぞれ特色のある教育研究を行っていますが、本大学の特色は、三つの教育研究理念に集約されています。

まず一つは、設立母体である暁学園の建学の精神「人間たれ」（人を愛し、学問を愛し、美を愛する豊かな人間を育てること）を教育研究活動の根幹とし、人権の尊重を基盤とした温かいヒューマンケアのできる看護専門職の育成、そのヒューマンケアに資する研究など、その具現化に努めることです。二つ目の教育研究理念は、高度で最先端の看護専門学芸を教授・

研究することです。つまり、確かで最先端の看護知識・技術を持ち、保健・医療・福祉現場での状況に応じた活動ができる看護専門職を育成することや最先端の看護知識・技術を生み出すための研究を行うことです。

三つ目は、産業都市である四日市市の地域特性に鑑み、産業看護、つまり働く人々への看護を通して地域社会に積極的に貢献することです。

開学して8カ月が経過しましたが、学生たちも教職員もそれぞれに新しい環境に慣れ、学生たちは勉学はもとより学友会活動



日市看護医療大学の教育理念をベースとした教育体系の構築―4年後、四日市看護医療大学のあるべき姿としての卒業生を送り出すために―と「四日市看護医療大学の教育理念をベースとした教育体系の構築その2―各科目・領域間の連携と統合を目指して―」といったもので、活発な討議が行われました。

10月2日に、文部科学省による大学設置計画履行状況実地調査が行われました。4人の学生へのインタビューに始まり、施設設備のチェック、大学の役職者へのヒヤリングが実施されました。その結果、学生の大学に対する満足度が高く、また、教育研究理念に則って特色ある教育が遂行されているというところで、「大変良い」との評価をいただきました。これも一重に井上市長をはじめ四日市市の皆様、本大学後援会の皆様のおかげと深く感謝しております。

この良い状態をさらに発展させるべく、学生と教職員が力を合わせて頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 随筆

## 幸せを感じるとき

書棚の片隅に古人の伝記を見つけた。そう言えば最近仕事に関連した書物や資料に目を通すことにもつばらとして、ついで好きな読書を後回しにしがちになっていた。気がつけば深まり行く晩秋の気配をゆっくりと觀賞する暇もなく今年も足早に通り過ぎようとしている。取り上げて何気なく開いた書物の一節に良寛にちなんだ記述を見つけしばし読みふけた。

良寛（1758年～1831年）江戸後期の禅僧、歌人でもある。故郷の国上山の五合庵で、世俗を離れ閑雲野鶴の生活を送ったという諸説は広く知られている。良寛が時の立つのも忘れて子どもたちと戯れたという逸話は有名である。墨染めの衣の袖をたくし上げ、子どもと一心に鞠をついて戯れる姿が思い浮かぶ。また、「良寛エピソード集」から良寛は奇行の人としても伝えられている。しかし、良寛は単なる「奇行の人」ではなくその「奇行」は特別な感性を持っていたがゆえになされたことであった。そのひ

とつに、良寛の人柄が偲ばれるエピソードがある。「或る日五合庵に泥棒が侵入した。しかし良寛の住まいには、盗るものなどは何もなかった。良寛はその泥棒が哀れになり、着ているボロをめぐんだ。」良寛の貧しい暮らしのうちにも慈悲深い心情が伺われる。彼の生涯は清貧に徹した生活（無欲）を自ら選び（寺の住職を嫌って固定収入のない生き方）五合庵や乙子神社に住み、托鉢時には手紙の代筆をしたり、書画を描いたりして、そのお札（米、味噌、野菜など）で質素に暮らしていたという。

良寛の歌に「欲無ければ一切足り 求むる有れば万事窮す 淡菜 飢えを癒すべく納衣聊か躬に纏う」欲がなければ一切が満ち足り 求めたがると万事がゆきづまる。菜ばでも飢えはしのげるし、一枚でも体は覆える。（小林正観訳）「清貧の思想」を自分自身の生き方で示している。また、良寛の「欲」は物欲、食欲、性欲、睡眠欲、名譽欲の五欲を指して戒めている。

21世紀の現在、良寛の生きた時代ではおよそ想像すら出来なかつたであろう目覚ましい科学の発達により人々は、快適、便利、迅速、そして、豊かな生活を享受した。特に、無くて

はならないものになったIT関連の機能は日進月歩で精密の度を高め、あたりまえのように世界の情報をリアルタイムで瞬時にわれわれに提供してくれる。そのこと自体否定する者は誰もいないであろう。しかし、一方でその豊かな社会で生きていくわれわれに真の幸福感が薄いのはなぜか（新聞、TV、マスコミ報道等で自殺、強盗・殺人など社会問題が急増）、良寛の言葉を借りれば、「人々はひたすら所有を求めすることに意義を見出す」として、良寛は利害得失で成り立つ世界を捨て（弟に家督を譲り）、別の価値の世界つまり「仏の世界」、「心の世界」、に

四日市看護医療大学  
教授（老年看護学）

露木 敏子



身をささげる決心をした。そして、ひたえに正直を徳とし、純粹な心を宝とした無欲恬淡の人生、権威や肩書き、財とは無縁の生涯を終えている。

人々は良寛に触れることにより自然に自分の生き方を省みさせられる。有り余る物がいつでも安易に手に入る現在、そのことに人々はありがたさを感じてはいないであろう。「無」を知ってそのありがたさを知る。「文明の進歩が人々に幸せをもたらす」というのは間違っていたのか？ ……



平成19年度

# 四日市看護医療大学 入学式



四日市看護医療大学入学式が4月2日(月)午前10時から、同大学キャンパス内の会場にて挙行されました。当日は四日市市長をはじめ多くのご来賓の方々にご臨席いただきました。本学1期生となる新入生143名全員が出席し、河野啓子学長の入学許可宣言に始まり、学長式辞、宗村理事長の挨拶、ご来賓のご祝辞を頂き、新入生代表による宣誓をもって式は滞りなく終了しました。

また式辞、祝辞では、新入生に対して社会的責務の重さ、地域社会の期待の大きさが語られ、新入生一同、修学に向けて決意を新たにしていました。

# 竣工式

The ceremony for the completion



本学新築校舎の竣工式が平成19年3月28日午前10時から新校舎学生ロビーに設けられた会場にて行われました。5月11日の起工式から約10ヶ月という短い工期でしたが、事故もなく天候にも恵まれ、工事は順調に推移してめでたく校舎は完成し竣工式を迎えることが出来ました。四日市市長、四日市市議会議長、市立四日市病院長、四日市市立高等看護学院長、三重県議会議員、四日市市議会議員、三重県看護協会、工事関係者の方々にご臨席いただき、

暁学園・本学関係者併せて約80名の出席となりました。式終了後は新校舎の見学に移り、各実習室・講義室などを実習担当教員の説明とともにご案内をさせていただきました。

建物外壁は、看護のイメージとしての白亜のタイルで覆われ、学生エントランスから導かれる吹き抜けの学生ホールは明るく開放的な空間です。

新校舎は5階建ての実習棟と4階建ての講義棟から構成され、延べ床面積は約6,600㎡となります。実習棟には、基礎看護、成人・老年、母性・小児、地域・在宅の各看護分野の実習



■コンピュータ教室

■実習室



# 開学記念式典・記念講演会 祝賀会 開催

四日市看護医療大学開学記念式典が10月13日(土)同大学キャンパス内で挙行されました。

宗村南男理事長の式辞の後、河野啓子学長は挨拶の中で、「暁学園の建学の精神である『人間たれ』に基づき、人から愛される優秀な看護師を育成して

いきたい」と述べ、来賓の方々からは「地域のために大きな力を発揮してほしい」と御祝辞をいただきました。

井上哲夫四日市市長、岩名秀樹三重県

議会議長、向井正治三重県健康福祉部長(三重県知事代理)、笹岡秀太郎四日市市議会議長、伊藤八峯市立四日市病院院長、山口直美三重県看護協会会長に来賓として御臨席いただき、県、市、病院、実習施設、企業など同大学関係者約220人の方々に御出席頂きました。

続く講演会では、国際産業保健学会副会長の小木和孝氏により「産業都市の更なる発展に向けてー四日市看護医療大学への期待ー」というテーマで記念講演会が開催されました。

小木氏は、四日市市のような産業都市に求められる医療や保健のあり方及び人材育成やネットワークの確立など高等教育機関に求められる役割や期待について説明されました。その後会場を四日市都ホテルに移し、開学記念祝賀会が開催されました。宗村南男理事長の挨拶に続き、豊田長康三重大学学長による乾杯、宮崎徳子学科長による学生生活紹介と続き、



丸山康人副学長の謝辞をもって、開学記念祝賀会を終えました。祝賀会場にも160人近くの方々に御出席いただき、終始和やかな雰囲気でした。

## 四日市看護医療大学教職員一覧

[平成19年12月1日現在]

### ① 教員

役職者新任

学長	河野 啓子 教授
副学長	丸山 康人 教授
企画部長	丸山 康人 教授 (兼任)
学科長	宮崎 徳子 教授
学生支援センター長	宮崎 徳子 教授 (兼任)
図書館長	山崎 正人 教授

新任

看護学部看護学科	
露木 敏子 教授	近藤 信子 教授
鈴木 敦子 教授	青野 淳子 教授
中村 喜美子 教授	山本 美佐子 教授
赤井 由紀子 教授	タニエルカーク 教授
長江 拓子 准教授	橋爪 永子 准教授

東川 薫 准教授	牛之濱 久代 准教授
高橋 佳子 講師	萩 典子 講師
荻野 朋子 講師	山田 裕子 講師
大平 肇子 講師	後藤 由紀 講師
小笠原 ゆかり 講師	中島 千里 助教
加藤 睦美 助教	岡部 充代 助教
養田 さゆり 助教	大西 信行 助教
長倉 里加 助教	高橋 悦子 助教

### ② 事務職員

新任

事務局長	松浦 稔
事務局会計課長	松浦 稔 (兼務)
学生支援センター次長	中村 博
学生支援センター教学課長	中村 博 (兼務)

事務局庶務課長	三宅 真一
企画部庶務担当課長	小谷 雅彦
入試広報室入試広報課長	上岡 定行
図書館図書課長	松本 和彦 (兼務)
学生支援センター-教学課主任	松永 容子
学生支援センター-教学課主任	山口 鎮
入試広報室入試広報課主任	渡辺 正生
企画部	土屋 美雪
企画部図書担当	岩谷 直樹
入試広報室入試広報課	市岡 哲治
学生支援センター-教学課	古川 陽子
事務局庶務課	東 陽信
事務局会計課	川辺 照美
図書館図書課	後藤 真由美
事務局庶務課	江間 美絵
事務局庶務課	山崎 愛

四日市看護医療大学の  
教育上の理念  
FDワークショップ開催

## FD活動の めざすもの

四日市看護医療大学における  
FD (Faculty Development) の組

織的取り組みは、開学と同時に  
学長を委員長とした委員会が設  
置され、その活動を開始しまし  
た。FDは教員集団の資質を教

育と研究の双方の側面で発展さ  
せていくことを目指したもので  
すが、本学は開学したばかりと  
いうこともあり、まずは本学の

教育理念について全教職員が理  
解を深め、共通認識のもとに4  
年後、四日市看護医療大学のあ

るべき姿としての卒業生を如何  
に輩出していくかを旨とし、教  
育体系を構築していくことを目

標にして、第1、2回の研修会  
を実施してきました。本学では、  
教員の教育の質の向上はもとよ

り、職員は教員の教育・研究の  
サポーターとして、学生への教  
育サービスの満足度を向上させ

要な位置づけにあるとし、教育  
ベースの運営意識の向上を期待  
して研修は可能な限り教員と共  
に行うこととしています。

この第1、2回FD研修会  
後の成果が、教育活動の中で  
実感としてもてる活動の連続  
性を確保していくことが必要  
なのですが、その実質的な活  
動や組織的な取組の面では課  
題が残されており教職員の意  
識の啓発を含め今後一層の充  
実が必要と思われます。

FDの基礎となるものは創  
られてきたと思いますので、  
今後は中期的・長期的な課題  
の設定や企画で、教員、教職  
員合同、教職員学生合同など  
さまざまな方法を駆使し、教  
育の充実（授業の質の改善、  
授業方法の開発、参画型教育  
など）と共に、学生の学習意  
欲の向上と教育サービスの満  
足度の向上にむけて、本学関  
係者全員で取り組むFDの体  
制を構築していきたいと考え  
ています。

〔四日市看護医療大学〕

専任講師（成人看護学）

高橋 佳子

## 図書館の紹介

四日市看護医療大学図書館は、本学開学と同時に開館しました。利用者の便を考慮し、実習棟1階の学生ホール奥に位置し、PC15台を備えるコンピュータ室を併設しています。図書データはすべて電子化されており、館内の蔵書は学内LANおよびインターネットを介して学内外からの検索が可能です。

また、より広範な学術情報を利用者へ提供するために、『メディカルオンライン』・『医中誌WEB』等各種データベースを導入しています。さらに、国立情報学研究所 (NII) や東海地区医学図書館協議会の相互貸借サービスに加入

し、図書館間の連携にも積極的に取り組んでいます。

地域貢献としては、三重県内の看護・医療・福祉等に従事されている方々に開放しています。看護研究や看護実践能力の向上にお役立てください。



床面積	718.81m <sup>2</sup> (内コンピュータ室 42.53m <sup>2</sup> )
座席数	98 席 (内コンピュータ室 15 席)
所蔵可能冊数	約 7 万冊
蔵書冊数	約 7 千冊
雑誌種数	54 種 (来年度より 105 種)
視聴覚資料	約 300 点
開館時間	月～金 9:00 ～ 21:00 土 9:00 ～ 17:00

(平成 19 年 11 月 1 日現在)

## 学食だより

学生食堂は、食事のみにとどまらず、学生・教職員が憩い、交流することができる貴重な場所です。学外の方にも御利用頂いております。食堂の運営は、集団給食請負で実績のある「魚国総本社」へ委託しています。以下は、その食堂担当者の方からのメッセージです。

学生食堂では皆様が集まる憩いの場としてご利用いただけますように、毎日日替わりで様々なお食事をご提供しております。

朝は早くから練習を終えた運動部の学生様が訪れ、湯気の立つ肉まんを仲間と一緒にほおぼる様子や、お昼時にな

りますと、看護医療大学と四日市大学の両学生様、教職員様がカウンター前に同じく並び「今日はコレにしようかな!」「先生、こっちは美味しいですよ!」など楽しげな会話から、賑やかで活気ある校風が伝わってきます。

また皆様の健康づくりのために、様々な情報発信とともに血管年齢や肌年齢、骨の健康チェックなど啓蒙イベントを実施してまいりますので、今後ともご愛顧くださいますように、お願い申し上げます。





# 地域看護学実習～ふれあい実習～を終えて

この4月に入学式を終えたばかりの本学第一期生が、7月25、26日の二日間にわたり、開学後初めての臨地実習（地域看護学実習）を行いました。

実習は5～6人ずつ24のグループに分かれ、病院で実習したり、老人施設や保健センター、地元の保育園や企業などを訪問しました。

病院では、看護師から患者との接し方や、体温や血圧

の測り方などを習ったり、実際に患者の車いすを押すなどの実習も行いました。学生たちは緊張した手つきながらも、時折立ち止まって患者を気遣うなどして、懸命に対応する姿が印象的でした。

このふれあい体験を通して、地域の人々の健康や環境について学んだ学生たちは、これからの看護学学習の基礎となるものを得ることができたと思います。

実習体験記

## 企業編

看護学部 看護学科一年  
山本 亜友美

私は地域看護学実習で、ある企業に行きました。

従業員は、継続した立ち作業や座ったままでの作業のため、運動不足になりがちです。また、機械を相手にした作業のため、人との関わりが少ないことから、うつ病の原因になっているかと思われました。これらの健康課題に対して、企業では、運動大会を開催したり、食堂のメニューにカロリー表示をするなど、従業員自身が健康に心がけています。

また、メンタルヘルスに対しては、保健師が自ら現場に出向き、直接従業員の様子を見たり、話を聞いたりしていました。そこで信頼関係の重要性を改めて感じました。従業員の健康管理を産業医、保健師、看護師4人で行っています。従業員や会社、医療従事者などすべての人が連携することが大切だと感じました。

実習体験記

## 病院編

看護学部 看護学科一年  
今村 健一郎

今回の実習で私が心に残った事は、患者さんと向き合い、同じ時間を共有する事の大切さです。私は実習に赴く前、医療と違うものほどこか機械的で病気を治すだけの技術という考えが拭い切れませんでした。しかし、現場で生の医療に触れたり、最前線で働く方々のお話を聞いていくうちに、自分が捉えていた医療というものが余りに狭い範囲と言ふ事に気がつきました。医療の中における看護の分野において、現場で働く方々は、どんなに仕事が忙しくとも、一人の患者様と時間を共有し、病気や疾病から逃げる事の出来ない苦しみを理解して生きる希望を手助けしていることを学ぶことができました。今回そのような姿を自分の目で見る事が出来た事は、今後、看護師という職を目指す上でとても重要なことで、私の心の支えになると思います。



## 実習施設一覧表

- \* 市立四日市病院
- \* いなべ総合病院
- \* 県立総合医療センター
- \* 四日市社会保険病院
- \* みたき総合病院
- \* 富士電機
- \* NTN桑名製作所
- \* 東芝四日市
- \* 東芝産業機器製造
- \* 菰野町保健センター
- \* 四日市市保健センター
- \* 桑名市中央保健センター
- \* サンビュー四日市
- \* 湯の山介護老人保健施設
- \* 友愛トピア
- \* 保々保育園
- \* 八郷西保育園
- \* 下野中央保育園
- \* 大矢知保育園
- \* くす北保育園

## 教育後援会 役員会・総会

7月1日(日)四日市都ホテルにて、平成19年度四日市看護医療大学教育後援会役員会および総会が開催されました。当日は、役員選出、事業計画、予算、その他の事項について審議され、すべて承認されました。また、出席した保護者と大学側との活発な意見交換もなされ、内容の充実した有意義な会となりました。

### 平成19年度 教育後援会 役員

会長	児玉 康幸	副会長	浅尾 建
書記	伊藤 恒朗	会計	山本 貴久
監査	生川 幸子	監査	川出 洋正

\*四日市看護医療大学教育後援会とは、本学学生の保護者またはそれに代わる者をもって組織され、大学と家庭との連絡の緊密化を図ると共に、本学の教育振興に寄与することを目的として、平成19年4月1日、大学開学と同時に設立されました。



## 平成19年度 教育後援会

### 保護者懇談会

保護者と大学との情報交換の場となる「保護者懇談会」が9月22日(土)本学内で開催されました。これは、保護者と大学との相互理解を深めるために、大学、教育後援会の主催で行うもので、全学生の約四割にあたる保護者が出席し、本学への関心の高さを裏付けるものとなりました。

午前の部では、河野学長から本学教育の現況や方針、宮崎学科長から学生生活全般についての説明があり、その後、会場を変えての懇親会では保護者と教職員、保護者同士が和やかな雰囲気の中で、活発に交流する場が見受けられました。

午後の部では、各研究室において教員による個別面談が行われ、施設見学やコミュニケーションコーナーも賑わっていました。保護者からのアンケートでは「個別面談の内容に満足している」、「子供がどのような環境で勉強しているのかが分かり、安心できた」などの回答が寄せられ、保護者懇談会が保護者と大学双方にとって有意義であったことを示す結果が得られました。



## 平成19年度のオープンキャンパスが盛況のうちに終了しました。

open campus

平成19年度のオープンキャンパスが無事に終了しました。

また、未来の後輩たちのために自ら進んでスタッフに名乗り出てくれた本学の学生たちも本当に頑張ってくれました。目を輝かせて話をする彼女たちを実際に見て、この先輩たちと一緒に勉強したいと思った参加者も多いはずですよ。

7月15日(日)は台風4号の影響で残念ながら中止となりましたが、8月11日(土)は317名、9月17日(祝)は167名、10月28日(日)は100名と計584名の方にご参加いただきました。参加者の内訳は、584名中356名が高校生・受験生で、3年生が262名、2年生が73名、1年生が7名、その他が14名でした。県別では、主なところで三重県が223名、愛知県が74名、岐阜県が18名、静岡県が5名となっています。

全体説明終了後の学食体験では、バイキング形式(10月28日のみランチパック形式)のランチが好評で、自由行動となった午後からは各自が興味のある模擬講義や実習体験に参加していました。また、学生ホールに設けた相談コー

ナーでは、参加者が入試方法や大学生生活等について相談し、対応した教職員や学生スタッフの説明に熱心に耳を傾けていました。

アンケートでは「大学全体が明るく楽しい雰囲気、清潔感に溢れていて、入学したいという気持ちが一層高まった。」「皆さんが優しく笑顔で挨拶をしてくれて、看護学を教える人又は学ぶ人として好感がもてた。」「学生スタッフの方の対応が良く話しやすかった。」「人と人とのふれあいを大切にしているのだということが肌で感じられた。」「学長以下、皆さんの熱意が感じられた。」など、ご紹介しきれないほどの嬉しい「声」をいただきました。

来年度はさらに充実したオープンキャンパスを開催できるよう努力して参ります。



# 平成 19 年度 公認団体

## 体育会系

- ◆硬式テニス部
- ◆ソフトテニス部
- ◆バドミントン部
- ◆ヨガサークル
- ◆陸上球技部

## 文化会系

- ◆ENGLISH CLUB
- ◆家庭科部
- ◆軽音楽部
- ◆さど一部 (茶道部)
- ◆Lape★Lape (アカペラ)

## バドミントン部

中嶋 紗弓

### 私

達バドミントン部は毎週月・木曜日に体育館で活動しています。バドミントン経験者から今まで運動部に所属経験のなかった部員、今までは他のスポーツをやっていた大学でバドミントンを始めた部員など様々ですが、皆で力を合わせて、よりよい部活動にしたいと日々努力しています。今年三重県学生バドミントン選手権に数名が出場しました。よい成績を残すことは出来ませんでした。よい経験になりました。目標はそれぞれ違いますが、皆バドミン

トンが大好きなのは一緒です！

また私達が目指している医療関係の仕事はとも体力のいる仕事です。バドミントンで基礎体力の保持・増進をし、将来のために役立てていけたらと考えています。

まだ創部して間もない部活動なので上手いかない事が多々ありますが、この部活動には顧問の先生を始め、多くの方の協力があります。感謝の気持ちを忘れずにこれからも活動していきたいと思っています。

今後私達四日市看護医療大学バドミントン部を応援してください！



## Lape★Lape (アカペラ)

諸岡 美香

### 私

私たちの大学は、ご存知の通り新設で、何もかもが新しく前例がありません。しかし、だからこそ自分たちなりの考えを持って行動に移す学生が多いのか、クラブ・サークルの活動が活発に行われ、とても充実しているように思います。現在、文化系のクラブ・サークルは6団体あり、今後増える予定です。どの部活も新しいことに挑戦したいという意志が強く、リーダーを始めとして向

上心の強い人ばかりが集まっています。そのため、どうしても初心者が多くなるのですが、四日市大学と合同で活動したり、指導して頂いたり、講師の方を招いたりなどと、各クラブで工夫がなされています。

先日、大学祭が行われ、軽音楽部とアカペラサークルにとっては日頃の成果を発揮する絶好の機会でした。どちらも素人ばかりの団体ですが、やる気と仲の良さが会場に伝わればなと感じていました。

私の所属するアカペラサークルも私以外は人前で歌う事を経験したことがなく、楽譜すら読めない人もいます。だから、専ら私が高校で得た知識や教本からの受け売りでなんとか教えるのがやっとです。アルバイトで忙しい人、クラブをいくつも掛け持ちしている人も多く、なかなか全員が揃うことがありませんが、その分自主練で鍛えられ、集まれば合わせられるといった感じです。

元々趣味の範囲だけだったものでも、呼びかければ共通の趣味を持った人ばかりが集まり、1人では出来なかったことが人数が揃うことによって実現することがたくさんあります。これからも、全力で頑張るので、応援よろしくお願いします！そして、皆さんに活動を知って頂く機会が増えることを願っています。

四日市看護医療大学学報 No.1 [発行日] 2007年12月20日 [発行] 四日市看護医療大学 庶務課 〒512-8045 三重県四日市市童生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 http://www.y-nm.ac.jp/

# 大学祭



10月27日(土)  
28日(日) 第1  
回大学祭が無事  
終了しました。

一日目の学内  
親睦会はいに

くの雨模様となりましたが、オープニングセレモニーとして軽音楽部のバンド演奏、アカペラサークルによる合唱等で幕を開けました。また体育館ではバレーボール、ドッジボールとチーム対抗で一丸となり汗を流しました。

二日目はお天気にも恵まれ、一般公開の中、各模擬店や、フリーマーケット、看護

学生としての特色を生かした催しが開催されました。白衣着用のもとバイタルサ



**バイタルサイン**  
(血圧・呼吸・脈拍・体温等)  
生命徴候として全身のもっとも基本となるサイン



インの測定や、ベッドメイキングコンテストを催し、一般の来場者の方も参加され、看護大学の特色にも触れていただき、各催し会場は大盛況となりました。

今回は第一回の大学祭ということもあり、実行委員も手探りの中でゼロからのスタートでしたが、やり遂げたことに喜びと満足感を感じることが出来たようです。

今回のテーマ『我風』の言葉どおり第一期生が心豊かで暖かい風を吹かせてくれたものと感じていきます。



## 学生相談室



### 学生相談室開設で 学生生活さらに充実

臨床心理士(井村安之先生)によるカウンセリングを毎週金曜日14時15分から16時45分まで開催中です。

学生の日頃抱えている問題について、本人の気持ちを大切に、時間をかけて話し合い、納得のいく毎日が送れるようにサポートしています。完全予約制ですので、誰にも気兼ねすることなくゆっくりと過ごしていただけます。



\*カウンセラーは、相談内容について『守秘義務』があります。  
\*生命に関わるような緊急の場合を除いて、友人や教職員に知られることはありません。

### 学生生活困りごと相談 随時受付中

本学の教員が、学生生活上の悩みや疑問について一緒に考え、アドバイスしています。担当教員は決まっています。随時、学生の要望により相談相手の教員を選ぶこともできます。少しでも学生の話を傾聴し、自分自身で意思決定ができるようサポートしております。

